

ふれあい 曾山医院

志筑1391-9
Tel:62-5566

2025年3月号
(第155号)

発行人
曾山 信彦



編集委員会



曾山医院
ホームページ
soyama-clinic.com



小児肺炎球菌感染症とワクチン

◆肺炎球菌感染症って
どんな病気？

▼肺炎球菌という菌によつて起こる感染症の総称です。

肺炎球菌は、ふだんから子供の鼻やのどにすみついている菌です。咳やくしゃみなどによつて周りに飛び散り、それを吸い込むことで広がります。

ふだんはおとなしくしていますが、特に6か月齢未満の赤ちゃんに、時



に重い感染症を引き起こす場合があります。

肺炎球菌は分厚い膜に覆われており、体の免疫からの攻撃に強く、中には薬剤が効きにくい菌もあります。

感染すると入院が必要となる場合があります。重症化すると後遺症が残ったり命にかかわったりすることがあるため、注意が必要です。

◆肺炎球菌が引き起こす
主な感染症

▼細菌性髄膜炎

血液に運ばれた菌が、血液と脳の間にあるバリアを通過し、脳を包む膜(髄膜)で炎症を起こす病気。後遺症が残ったり命にかかわったりすること



があります。

▼肺炎

菌が肺で炎症を起こす病気。症状は風邪とよく似ていますが、肺炎と菌血症に同時にかかってしまふと重症化しやすく、入院が必要になることがあります。

▼菌血症

菌が血液の中に入りこんだ状態。血液の中の菌が全身にまわり、髄膜炎などの重い感染症を引き起こすことがあります。

◆肺炎球菌ワクチンとは？

▼肺炎球菌による感染症を予防するワクチンです。

肺炎球菌に対する免疫をつけることで、感染症の発症を予防します。

たくさんある肺炎球菌の型(種類)のうち、重い病気を起こしやすい型による感染症の発症を防ぎます。感染したときに重症になることも防ぎま

◆肺炎球菌ワクチンを接種するスケジュールは？

▼標準的なスケジュール

・最初の3回は0歳児での予防、追加の1回は1歳以降の予防のために接種します。
・小児の定期接種は、生後2か月以上5歳未満ま

す。

・肺炎球菌に対する抵抗力(免疫をつけることができます)。

・ワクチンの定期接種が始まってから、肺炎球菌感染症の患者数は減っています。

(2013年4月に定期予防接種開始)
・生後2か月から接種できます。
生後2か月になったら

ですが対象です。

肺炎球菌による感染症にかかるとリスクが高いため、考えられる場合は、任意でのワクチン接種

が可能です。
標準的なスケジュールで接種できなかった場合や

なるべく早く接種を開始しましょう。

・副反応の多くは、注射部位の赤みや腫れ、発熱などです。このほかに気になることがあれば、医師にご相談下さい。

・医師が必要と認めた場合には、ほかのワクチンと同時に接種することができます。接種のスケジュールは医師と相談してください。

任意接種に関しては、医師にご相談ください。

